

2 実践事例（5）

東根市立神町中学校

研究の目的

平成 29 年に改訂された学習指導要領において、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力に位置付けられ、育成のためには、各教科等の特性に応じて適切な学習場面で育成を図ることが重要である。また、そうして育まれた情報活用能力を発揮させることにより、各教科等における主体的・対話的で深い学びへとつながっていくことが一層期待できる。

これを受け、本校では、「思考力・判断力」を育むための「知識・技能」を「習得・活用・探究」する問題（課題）解決型の授業を設定し、課題に合わせて主体的に学習を進めるのに効果的なタブレット学習を導入していく。

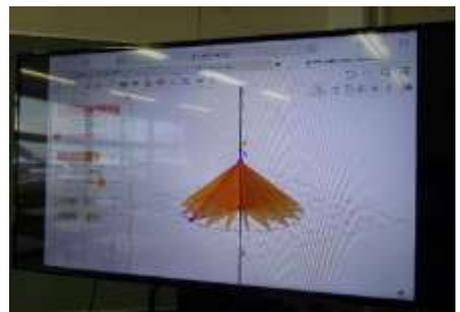
実践紹介

特定の教科等において、より効率的・効果的な活用例

【数学】

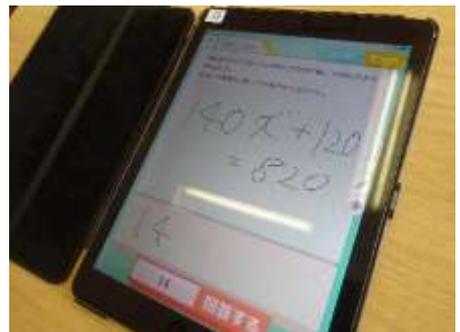
【観察を通して、図形概念や図形の性質を考察し表現する場面】

- ・ 学習アプリ「Shapes-学ぼう ～3D幾何学～」やインターネットの「シミュレーション動画」を活用した。空間図形を図に表すとき、空間図形をそのままの形で平面上に表すことはできないので、空間図形の調べたい特徴に応じて、見取図や展開図及び投影図を選び、アプリを活用しながら適切にかくことができた。



【AI型タブレット教材「Qubena」を用いて学習内容の定着を図る場面】

- ・ 「Qubena」を使った個別での演習では、事前に作成・配信しておいたワークブックに取り組みさせた。難しい問題を友達と教え合いながら解き進めている生徒やヒント、解説をじっくり読んで丁寧に取り組んでいる生徒が多数いた。普段から活用しているが、自動で丸付けをしてくれるだけでなく、間違えた理由を人工知能が解析し、その生徒に合った問題を出題してくれる。また、解説も詳しく表示されるため、意欲的に取り組んでいる生徒が多い。



教科等によらない汎用的な活用例

【一斉学習】

- ・英語科の授業において、教科書に出てくる各国の特徴や文化を動画や画像で確認することで、視覚資料によって効果的な学習場面が展開され、より確かで豊かな理解を生徒にもたらしすることができる。



【協働学習】

- ・動画編集アプリ「InShot」を活用し、社会科の発表資料を協働で作成した。調べた情報を比較したり、よりよい発表のために言葉を精選したり、自分たちの音声を吹き込んだりすることが自然にグループ内でなされ、表現力や思考力の育成につながった。



成果・次年度に向けて

【生徒にとっての成果】

- ・タブレットが日頃から授業の中で当たり前に見える環境にあることで、タブレットへの興味が各教科への興味につながった。

【教職員にとっての成果】

- ・AI型タブレット教材「Qubena」を用いた学習では、学習の効率化によって生まれた時間を机間指導の時間に割り当てることができ、個々の生徒への指導時間を増やすことができた。
- ・ICT機器を活用することで、教職員の説明に視覚的情報を加え、生徒の興味を引き出すことができた。また、理解・思考を促すことにもつながった。

【次年度に向けて】

- ・「1人1台端末」の整備に伴い、まずは使い方や管理等のルール、情報モラルを指導していく必要がある。教職員は、簡単な操作である写真を撮ったり、画像を拡大するなど、「まずは試してみる」という意識を大切にしていく。その後は、ICT機器の使用について試行錯誤し、子供達自身が発見しアイデアを出し、形にするという主体性のある学びを実現していきたい。